

阿修羅

第13号
1970.10.21.

学苑会中央執行委員会

書記長 小島保雄
(連絡先——二野路学生街)

10・21国際反戦デーは、今日想るて我々は幾度も自己批判せらるゝにあり。それは、10・21を既にしじの我々の取り組み方の不毛な分性、日共＝民青への対応に過かれ、それが振り回されこじに我々。我々はナーナーと罵られていた。去年の大字反米統一大会でアーヴィング・ラフキンの完全敗北、即ち、我々がラブスに入つて「ほつた時、「投票を受けていたんだ」という子友のアーヴィングの前に、我々は、それ以上のリアリティを提示できなかつた。それが意味する。

しかししながら反節者! 我々は昨年の「全面的脱臼」を開始したこと。は回してこそ遠くへ。我々のもじる限りの力で、それ以上つかむ。そして、その作業に全ての争が参加されたことである。

10・21は戦争化したばかり。何故なら中央权力攻撃斗争の一環として斗われなければならぬに。と共に代々木公演における統一集会が、量のもの極大に往生し、その多数の工農による講会主義へと始じてしまつ。このゆる庶民主義の「民主主義路線」の運動破壊と闘おうのものぞかなく、社会党にて二輪分離をめざす代々木公演に於いても、昨年の武蔵峰起訴「危じて」と「民青同盟の動搖」と、内部に於いて開始してしまつ。社・共の10・21は内訌混乱、各種に10・21国際反戦デーといふかをうごめいてしまつ。彼等の意図する所は他ならない。

我々の10・21は我々の既存社・共の「統一集会」に対峙し、さうきりと一昨年、昨年度の10・21を振り返る。確かに現在我々は、混沌と停滞と禍々と闘ひ切れている。だがそれは前丘陵10年の重付であり、この10年前の運動が、昨年度10・21に争に於いて是事に破壊してしまつからに他ない。我々は、69年共産主義者同盟の意識的な斗争による、69年10・21第2次羽田斗争に再燃せず、やうに反安保、反田と斗つて、何んにその戦役を累積風景にしてしまつた。だが68年10・21は、その実力斗争と全面的に大家の自然在住に持続させ、その結果から、その負の歴史は開始したのである。もうことに気がつかなしまず、我々は昨年全国争議斗争に参入し、さらには昨年10・21自らの犯行指摘に拘つてしまつたのである。

その破壊は深めとして認められぬならぬ。何んどの説承から困難な犯行をアサムの舌にせがむかね。我々はそのことと認識し、昨年の面倒づけだ。そして原在の困難の中で、本日10・21に向かおうとしている。10・21は、既ちからに今度と異なりに自己としているものとして斗わねばならない。これは露骨で面白くない性質である。昨年の開始である。彼らの露骨とその超越である。斗いな常識のくじをとどめ、それが我々の運動の深化である。

全との学友諸君! 10・21我々と共に!

国际反戦デー 記念年代の突破口に!

新になる事を模索し、その音の中から、朝焼けに向かつて進撃を開始せよ!

中教審大学打倒!
学館自主管理実現!
入学体制初研!

被葉道上行阻止!
日本共同声明初研!
被葉道上行阻止!
日本共同声明初研!

本日 全二部総決起集会
5時半開始! 七号館前→田比谷→明治公園